

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学 文学部

前期日程

科目

国語(現代文)

総括

出題数	現代文 2題	古文 1題	漢文 1題
難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

Ⅰは、西村清和『幽玄とさびの美学』からの出題で、「美的フレーミング」という機制を用いることによって、「日本の美意識」という概念の意義について問う文章であった。文章量は3300字程度で、昨年度から1000字程度の減少であった。設問は、昨年度と同様に4問構成で、近年の傾向通り漢字の書き取り問題は出題されなかった。設問形式について、昨年度は内容説明3題、理由説明1題、となっていたが、今年度は内容説明2題、理由説明2題であった。

Ⅱは、川上未映子の小説『夏物語』から、多少の中略を挟んでの出題であった。昨年度は戦時の若者を題材とした1968年発表の小説であったが、今年度は2019年発表の比較的新しい小説であった。文章量は、4400字弱で、昨年度の3500字程度からは大幅に増加した。設問は、記述説明問題が4題で、設問パターンは全問理由説明形式の心情説明問題であった。例年の心情説明問題0～1題、理由説明形式の心情説明問題2～3題、表現説明問題1題の構成からは、文学部Ⅱ特有の表現説明問題が出題されなかった点で変化が見られた。

<合格への学習対策>

Ⅰは、評論から出題されているので、スタンダードな評論読解に基づく内容説明、理由説明、要約型の設問が課されると見てよい。多様なテーマの評論にあたり、90～150字程度の記述練習を積んでおくこと。具体例と抽象論の関係を踏まえた解答作成や、比喩の一般化説明、対比説明など、定番の記述パターンに習熟しておこう。

Ⅱは、小説からの出題が定着している。近代小説から現代作家の作品まで出題の幅が広いので、様々なタイプの小説対策を行っておこう。基本的設問パターンである、心情説明問題、理由説明形式の心情説明問題に加えて、今年度出題はなかったものの表現説明問題の記述答案作成にも習熟しておきたい。文学部Ⅱ頻出の表現説明問題は、過去にも2007年度、2011年度、2016年度、2019年度において出題されなかったが、その前後では出題が続いているので、今後も出題を想定して準備しておこう。文学部Ⅱの過去問題に加えて、大学入学共通テスト、及び過去の大学入試センター試験における表現問題の正解選択肢も参考に、解答を自分で作成してみることがトレーニングとして有効であろう。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
Ⅰ	評論	西村清和『幽玄とさびの美学』	特定の社会・文化において、習得などで共有された歴史相対的な条件枠に従ってえられるものが美的質であると述べ、美的本質を絶対的・普遍的に捉える従来の日本の美意識論を批判している。	標準
Ⅱ	小説	川上未映子『夏物語』	2008年夏を舞台とした第一部と2016年夏～2019年夏を舞台とした第二部で構成される長編小説の第一部からの出題であった。出題の範囲では、登場人物の人物像や心理的關係性に不明な部分が多く、表面的な内容の平易さの割には、読解の深まりを実感しづらい難しさがあったのではないだろうか。	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
Ⅰ	問一	記述	内容説明。傍線部直前の指示語「ここ」の指示内容をまとめ、それが傍線部を含む一文で述べられている「歴史の事実としての解釈学的循環」であることを、「循環」の語義に注意して示す。	やや易
	問二	記述	内容説明。「非美的な特徴」の内容を「美的質」との関係性から説明する。本文冒頭の一文に両者の関係性が述べられているので、〈「非美的な特徴」に対して、「美的」な特定のやり方で反応すると得られるものが「美的質」である〉という構文でまとめればよい。	標準
	問三	記述	理由説明。〈西洋人であるがゆえに、幽玄や「さび」を完全に理解することはできない〉ということについて、なぜ「根拠のない主張である」といえるのかを説明する。傍線を含む一文の直前直後で述べられた具体例をふまえ、美的フレーミングの習得によって美的感性の共有が可能になる以上、西洋人であっても日本的とされる美的概念を理解することは可能であるということを理由として述べる。	やや難
	問四	記述	理由説明。「美的フレーミングの相対主義」の立場に立つ筆者にとって、大西の「理論的・体系的普遍主義」が「受け入れがたい」理由を説明する。前者と後者の内容をそれぞれ明らかにし、両者の内容が相反するものであることを指摘すれば、それが理由となる。	やや難
Ⅱ	問一	記述	理由説明形式での心情説明。発話を傍線部に設定し、「(その内容を)言っているのはなぜか」と問うことで発言に至る内面心理を問うている。本設問では「二回繰り返して」いることの意図も問われているので、それに相応する〈強調したい・説得力を持たせたい〉などの心理的要素も加えておきたい。内面心理はシチュエーションに応じて生じるので「こういう場合」で指示される場面のシチュエーションをまとめたうえで、内面心理を説明するとよい。	標準
	問二	記述	理由説明形式での心情説明。内面心理の外化である身体的表現を傍線部に設定し、その内面心理を問うている。ここでも、〈傍らにいた夏子が「立ち上がろうと」した〉というシチュエーション(＝主体となる人物の周りの状況)をおさえたうえで、それに応じた心理を説明していくが、問一同様、傍線部以外の本文に直接的解答根拠となる心情が示されているわけではなく、傍線部の身体表現に対応し、かつシチュエーションに応じた心理を自らの語彙を用いてまとめていく必要がある。	標準
	問三	記述	理由説明形式での心情説明。このような発言(＝提案)につながる夏子の内面心理(＝ここでは意図)を、〈電子辞書で「言葉を引いてみる」〉に関連する要素と併せてまとめていく。傍線部は緑子に向けた発言であるので、〈緑子が電子辞書に興味を持っている様子(＝「電子辞書を手にとると…はっとしたように顔をあげて、ぱちぱちと目を瞬かせ…興奮したような表情…」)〉に着目し、解答要素として取り込んだうえで、場面全体のシチュエーションや緑子の心理を踏まえて発言の意図を考察しよう。	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

	問四	記述	理由説明形式での心情説明。傍線部が内面心理の外化としての身体表現であるので、その内面心理を説明する。心理に影響を与える直接的な外的要因＝シチュエーション（＝「物音の大きさ」）「以上の理由」を要求されているので、定番の内面心理（＝〈狼狽・動揺〉等）に加えて、「本文全体の内容をふまえ」た要素にも言及したい。〈現実の憂慮を「ジンクス」によって覆すべく辞書の世界や引いてみた語から連想される今ここの現実とは異なる世界に没入していた二人が、外部の音によって現実に戻されるという展開〉にも注目してみよう。	やや難
--	----	----	---	-----

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学 文学部

前期日程

科目

国語(古文)

総括

出題数	現代文 2題	古文 1題	漢文 1題
難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

江戸時代の歌論。例年通り和歌に関する問題が出題されていた。字数は1000字程度で、昨年度の650字程度よりも増加。

〈合格への学習対策〉

語彙・文法などに留意しつつ、人物や指示内容の補いを意識し、正確に読解する訓練を積んでおくこと。和歌の対策は必須。掛詞を含んだ和歌の現代語訳や説明の問題の対応に慣れておこう。引き歌や贈答歌の理解も重要。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
Ⅲ	歌論	『雲上歌訓』萩原宗固 うんじやう かく こん はぎわらそう こ	阪大での歌論の最近の出題歴は、4学部では2023年度の『秋香歌かたり』、文学部では2021年度の『八雲御抄』がある。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
Ⅲ	問一	記述	現代語訳 「紛らはす」の語義と丁寧語「候ふ」の訳出に注意	標準
	問二	記述	和歌の現代語訳 設問の指示はないが、掛詞を見つけて訳出する力が問われている	難
	問三	記述	理由説明 西行の心情を正確にくみとる	標準
	問四	記述	内容説明 解答作成の方針を定めるのが重要なポイント	難
	問五	記述	内容説明 本文全体を視野に入れて解くこと	難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学 文学部

前期日程

科目

国語(漢文)

総括

出題数	現代文 2 題	古文 1 題	漢文 1 題
難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年度は『説苑』から出題され、総字数 183 字・設問数 5 問であった。本年度は『晏子春秋』から出題され、総字数 132 字・設問数 5 問であった。問題文の分量は昨年度より大幅に減少した。

〈合格への学習対策〉

- ・頻出句形を十分にマスターしておくこと。
- ・説明問題に対処するため、読解力・表現力を身につけておくこと。
- ・文章の長短を含めて色々なジャンルの文章に親しんでおくこと。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
Ⅳ	説話	『晏子春秋』内篇・雑下	よく出題される。	やや易

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
Ⅳ	問一	記述	内容説明(わかりやすく)。	標準
	問二	記述	書き下し(すべて平仮名)。白文。	易
	問三	記述	内容説明(わかりやすく)。比喻。	標準
	問四	記述	現代語訳。「然」の内容を明示。返り点・送り仮名付き。	やや易
	問五	記述	内容説明(わかりやすく)。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。